

整理番号	2024P-	228	補助事業者名	社会福祉法人大谷会
------	--------	-----	--------	-----------

別紙4 JKA補助事業 2024年度 事前計画／自己評価書(4/5)

5. 補助事業の自己評価

作成日	2025	年	3	月	10	日	作成者	五十嵐 徹
-----	------	---	---	---	----	---	-----	-------

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画／自己評価書(3/5①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。					
(1) 受益者 (ニーズ)	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点	
(2) 事業内容	予定どおり、移送車2[車いす仕様(スロープ式)]を導入した。計画書では11月納車予定とされていたが、12月の納車となった。入居者の通院や短期入所の送迎に使用している。				
事業の新規性または継続の必要性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点	
事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点	
実施計画・体制	見積合わせ等が順調に進み、納車が約1ヶ月遅れてしまったが、無事導入することができた。			採点 4	
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] 2024年11月	[達成状況] 92%	[具体的内容] 事前計画通り、見積合わせや契約等行っていたが、納車が約1ヶ月遅れてしまった。	採点 4
	事業の成果・波及	[達成値] ①40件 ②40件 ③外部研修受講者数を前年度の2倍以上 ④利用者の満足度80%	[達成状況] ①92%②5%③98%④73%	[具体的内容] ①月間通院利用者数が36.6件で前年度より減少した。②今回導入した福祉車両を使用し短期入所送迎利用数を月40件と設定したが、施設内でコロナクラスターが発生し短期入所の利用を制限せざるを得ない状況となり、月2件だった。③外部研修への参加については、ほぼ計画通りに実施できた。④アンケート用紙を作成し入所者及び短期入所利用者の中から意思の疎通が図れる方を選び聞き取りにて実施したが、達成値に少し届かなかった。	採点 2
(4) 情報発信	事業の実施結果	[達成値] ①施設内に広報誌を掲示する(6か所)関係者には広報誌を配布する 313部数(入所者ご家族、在宅サービス利用者、市内の支援事業所)②法人のホームページへの掲載	[達成状況] 94%	[具体的内容] ①1月6日発行の広報誌に導入車両の紹介記事を掲載し、施設内に掲示した。また、入所者ご家族、在宅サービス利用者、市内の居宅介護支援事業所に配布した。発行部数が在宅サービス利用者減、市内の居宅介護支援事業所も減少しており、配布部数が予定時より減少した。②1月9日法人HPに掲載した。	採点 4
	競輪・オートレース補助金による事業であること	[達成値] ①施設内に広報誌を掲示する(6か所)関係者には広報誌を配布する 313部数(入所者ご家族、在宅サービス利用者、市内の支援事業所)②法人のホームページへの掲載	[達成状況] 94%	[具体的内容] 上記の情報発信時には、常に競輪補助金による事業であることを明示した。	採点 4
(5) 自己評価の体制	評価委員会を開催し評価を行った。自己評価の結果については、ホームページで公表予定。			採点 4	

(b) 総合評価

総合評価点	4
-------	---

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。	
(1) 事前計画(2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	ほぼ予定どおり、福祉車両を導入し施設入所者の通院支援を行っている。コンパクトな車両のため、狭いところも通りやすく、女性の職員も安心して対応することができ、安全、快適に送迎できている。補助していただいたことで、経費削減できた。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	新車であり乗り心地も良いため、入居者及び短期入所利用者の方々に喜んでいただいている。今後は施設入所者の通院と短期入所の送迎の他、小規模での外出や地域行事への参加等、様々なシーンで使用していきたい。
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点	今回の福祉車両の整備により、競輪補助事業のPRと地域貢献、社会福祉の向上に努めていきたい。

別紙 JKA補助事業 2024年度 事前計画／自己評価書(5/5)

(c) 事業の促進・阻害要因の自己分析

- 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)～(15)の「促進」または「阻害」欄に「*」を記し、要因の内容を a 欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを b 欄に、それぞれの要因分類の番号(1)～(15)を付して、具体的にご記入ください。
- 促進または阻害要因が無い場合には、(16) の欄に「*」を記してください。

事業の促進・阻害要因の自己分析					
	促進	阻害	要因分類	a. 促進または阻害要因の具体的な内容	b. 対応、今後この分析結果をどう活かすか。
内部要因			(1) 経費	約1ヶ月納車時期が遅れてしまった。また、当初予定していた重量税の金額変更(減額)があり、返金手続きの事務が加わり、事業完了が遅れる結果となった。	販売業者との情報収集、交換に努める。
			(2) 実施体制 (人員、関係機関の協力等の確保)		
			(3) 資材調達 (事業実施に必要な物資等の確保)		
		*	(4) 実施期間 (事業終了までに要する期間)		
			(5) 事業運営のノウハウ (進捗管理、資金管理等)		
			(6) 設計仕様の変更 (主に建築)		
			(7) その他		
外部要因			(8) 受益者の規模・ニーズ		
			(9) 実施体制以外の団体等の協力・支援		
			(10) 関連法制度の変更		
			(11) 利害関係者 (受益者以外)の要望への対応		
			(12) 災害の発生 (地震、洪水等)		
			(13) 同様の技術開発		
			(14) 競合するサービス・事業の出現		
			(15) その他		
		(16) 特になし			